



北海道 会報

第 149 号

発行所：北海道道德教育研究会

事務局：〒062-0041

札幌市豊平区福住 1 条 3 丁目 16-1

札幌市立羊丘中学校

TEL 011-851-9352 FAX 011-851-0924

発行人：松 井 毅

編集人：鹿野内 憲 一

日高・浦河大会の成果を函館大会につなげ



「特別の教科 道徳」の実施に備える

第 51 回北海道道德教育研究大会日高・浦河大会

大会長 松 井 毅

(札幌市立新光小学校長)

「丘と海のまきば」日高・浦河町において、第 51 回北海道道德教育研究大会を 450 名に迫る参加者を得て、盛大に開催できましたことをたいへんうれしく思います。御参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

また、今研究大会開催に当たり、御支援・御協力いただきました各教育関係機関及び会場校の浦河町立浦河小学校奥村校長先生、浦河町立堺町小学校郷校長先生、浦河町立浦河第一中学校神成校長先生をはじめ教職員、関係者の皆様、準備・運営に御尽力いただきました日高管内道德教育研究会（日道研）の会員の皆様には、改めて心より御礼申し上げます。

本年度の日高・浦河大会は、北海道研にとっては、日高管内で初めての全道大会でした。日道研の皆様は、4 年前より準備を始め、昨年はプレ大会を開催するなど、全道大会開催に向けて、精力的に取り組まれました。また、浦河町全体で強いお力添えをいただいたことに、オール浦河として道德教育の充実に取り組む熱意を感じました。

日高・浦河大会では、大会主題『しなやかな心をもつ児童・生徒の育成』のもと、「かかわる力を育む道德の時間の充実」を副主題に、「特別の教科 道徳」の実施に向けて、研究と研修の視点を通しての取組が発表されました。

午前中 3 つの学校で公開された 9 つの授業では、「資料・相手・自分とのかかわり」を『授業ベース』とし、心情共感を中心に、言語活動の充実・工夫を図った学習スタイル「基本」、問題解決を中心に、考え・議論する展開を工夫した学習スタイル「深化」、多様な指導方法の工夫を取り入れた学習スタイル「創造」など、多様な学習展開の授業が見られました。

これらの学習展開は、日高管内道德教育研究会が積み上げてきた実践をもとに考えられたものであり、道德の授業改善を図ろうとする強い姿勢を感じました。

私たちが今まで行ってきた道德の授業を見直し、「考え・議論する道德」の授業の在り方について研究・研修を更に深めていきたいものです。

午後に行われた課題別分科会では、全道各地の様々な実践が交流され、道德教育の今日的な課題をテーマに活発な話し合いが行われました。

この成果が今後各地に広められ、全ての学校で実を結ぶものと確信しております。

また、講演をしていただきました文部科学省教科調査官の赤堀博行先生のお話は、これからの道德教育の在り方について、わたしたちの進むべき方向を示していただきました。

このように、日高・浦河大会は、多くの成果をあげ、実り多い大会であったと思います。この成果を来年度の函館大会へとつなげ、平成 30 年の小学校、平成 31 年度の中学校の教科化に向け、オール北海道でがんばっていきましょう。

新たな道德教育のスタート



第 51 回北海道道德教育研究大会日高・浦河大会

大会運営委員長 福田 勉

(浦河町市荻伏中学校長)

雄大な自然に恵まれた丘と海のまきば、浦河町において、第 51 回北海道道德教育研究大会日高・浦河大会が日高の地で初めて開催され、400 名を超える参加をいただき誠にありがとうございます。北海道研や各支部、教育関係機関のご協力に心より感謝申し上げます。

本大会は、移行措置期間、道德科としての授業のあり方、また、本格実施に向けた「たたき台であり、確実な一歩」として、時期開催地であります函館大会に結び付くことを目標に、運営委員会も一丸となって準備・運営に努めて参りました。

授業公開では、『基本』『深化』『創造』の 3 つの学習スタイルで全 9 本を公開、また、授業後の分科会協議では、参加された方々が一言でも二言でもお話いただけるようにグループ協議を取り入れました。課題別分科会では、全道より 10 名の先生方の貴重な提言をいただき、熱心な討議をされました。更に、文科省の教科調査官に「道德の特別の教科化と授業改善のあり方」と題し記念講演を頂き、参加者一同明日からの道德の授業への意欲を高めることが出来ました。

最後に、本大会の成果等を各支部・各校での授業に生かし、道德の時間がさらに充実・発展されることを願い、お礼の言葉とさせていただきます。

第 51 回日高・浦河大会～授業者から

小学校 1 年授業者 市川 琴美

(浦川町立塚町小学校)

教員になって 4 年目で、全道道德研の授業者をするようになりました。町内ですら公開授業をしたことがない私に、務まるかどうか大変悩みましたが、自分の成長と周りの期待に応えたいという思いがあり、「やります。」と声を上げました。

1 年生の公開授業だったので、「聞くこと」「書くこと」の基本が身につけていない状態での道德の学習は、難しいものがありました。当日を迎えるまでに、子どもたち自身が道德の授業の流れに慣れ、「聞くこと」「書くこと」が上手にできるようになっていました。発問の幅が広がり、授業にも少しずつ深まりが出てくるようになりました。

当日の子どもたちは大変緊張していましたが、いつも通り思ったことをたくさん発表していました。子どもたちにも助けられた授業でした。

道德研を通して、ただ漠然と進めていた道德の授業が、発問の意図を意識して進めるようになりました。「他者理解」「自己理解」「価値理解」「人間理解」の 4 つ価値を、どこの発問で問うかと、考えられるようになりました。今回の道德研で終わりにすることなく、今後も道德の学習について学びを深めていきたいと思えます。



第51回日高・浦河大会～授業者から



小学校6年授業者 畑山 貴英
(浦河町立浦河小学校)

「考え、議論する道徳」への転換が話題になっています。本時では、資料「銀のしょく台」をもとに、主題「許すということ」について、授業の中で子どもたちが「考えて」いきました。

「考え、議論する」ための手だてとして、今回は、資料の改変や、分割提示、「司教はどうすべきか」を考えさせる問題解決的な学習方法を提案させていただきました。

賛否さまざまなお意見をいただき、大変勉強になりました。今後は、道徳授業でしかできない「考える」ということを意識しながら授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。



中学校1年授業者 廣瀬 崇
(浦河町立浦河第一中学校)

今回の授業をおこなうにあたって、町内や管内の多くの先生方にお力を貸していただき、なんとか指導案を完成させ、当日に臨むことができました。本当にありがとうございました。今回の内容項目は愛国心という、自分の中でも試行錯誤を繰り返している内容であり、反省点としては思うように授業の流れを作り切れなかったことがありましたが、自分としては日本について広い視点で考える機会となり、非常に学びの多い授業となりました。今回の授業をはじめとし、これからは子ども達にとって有意義な道徳の授業を研究し続けたいと改めて思うことができました。



第51回日高・浦河大会～課題別分科会提言から



第1分科会提言者 高野 克 (函館市立凌雲中学校)

道德教育の気運が高められる年間指導計画と評価の工夫について発表させていただいた。当日の発表は、見苦しいところしかご覧に入れることができませんでした。ただ、このような発表の場を頂き、改めて道德の指導計画や評価について見つめることができました。ありがとうございました。

『道德』を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変わってきました。最も驚いたことは、当時はタブーとされていた「グループでの話し合い活動」が入ってきたことです。私自身「子どもたちとともに道德の授業を創り上げていこう」と考えたとき、本音で語る活動は必要であったため以前から「グループでの話し合い活動」を取り入れていました。当時は「学活だね」と言われました。もちろん、話し合い活動が目的化してしまうような失敗も多くなりました。

この提言をつくるにあたって、改めて子どもたちにとっての道德授業はどうあるべきかを考えることができました。

第3分科会提言者 山口 稔 人 (陸別町立陸別小学校)

今回の提言では、本校のカリキュラムマネジメントを中心とした評価の実践と、特色ある教育活動と道德の時間との関連を発表させていただきました。この発表を通し、内面に根ざした道德性を育むために児童の実態や地域の特色に沿った教育活動の展開を行うことでの大切さについて再認識いたしました。また別葉についても同様にカリキュラムをマネジメントしていく必要性を痛感いたしました。

分科会では、温かいご意見やご感想、ご助言をいただき、多くのことを学ばせていただきました。このような機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。



第5分科会提言者 加納 克 則 (留萌市立潮静小学校)

今回の提言では、今日的な課題となる「いじめ問題」や「情報モラル」に関する道德の授業と他の教育活動と関連させた実践や地域人材を活用した道德教育に実践について発表させていただきました。

協議を通して、今日的な課題となる道德教育を学校全体で取り組むことの重要性や道德の教科化になることで、より地域と学校が連携した地域性を活かした道德教育を進めていくことが大切であることなど多くのことを学ぶことができました。

このような貴重な機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。



日高・浦河大会講演



**講師:文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 赤堀 博行氏**
演題『道德の特別の教科化と授業改善の在り方』

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官・赤堀博行氏により、「道德の特別の教科化と授業改善の在り方」と題して講演が行われた。

講演では、これまでの「教科化」をめぐる論議について、「特別の教科 道德」の内容と配慮事項や特質、学校での道德教育の進め方や道德授業の基本的な考え方など、当日の授業の様子も交え、パワーポイントを使いながらわかりやすくお話ししていただいた。講演でのポイントは、以下のようなものである。

- 道徳的価値の理解
- 自己を見つめる
- 物事を多面的・多角的に考える
- 自己の生き方についての考えを深める
- 道徳授業の確実な実施
- 計画的、発展的な指導
- 考える道徳授業の創造
- 児童生徒の学習状況の把握と評価
- 多様な方法を取り入れた指導
- 道徳教育の目標の明確化
- 重点内容項目の明確化
- 重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期の明確化
- 学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充・深化・統合する
- 明確な指導観に基づく道徳授業の構想



大会スナップ



第 51 回北海道道德教育研究大会日高・浦河大会
 ＊期日：平成28年10月21（金）
 ＊会場：浦河町立浦河第一中学校
 浦河町立浦河小学校 浦河町立堺町小学校
 （理事会・交流会）
 ウェリントンホテル浦河